

マイブーム文化学

Culture Now

アラビア語にも、書道がある？

文化学部 国際文化学科 3年 高柳 萌さん

私は現在、イスラム教について研究しています。そのために聖典の言語であるアラビア語も勉強しています。アラビア語の魅力は、何といても文字の美しさです。実は、日本の書道と同じように、アラビア語にも書道があります。それには理由があります。イスラム教ではキリスト教とは違い、偶像崇拝が禁じられていて、その代わりにコーランが書かれているアラビア文字を芸術として発展させてきた歴史があるので、いつかコーランを原文で読み、イスラム教についてもっと深く理解したいと考えています。この夏には、他大学の学生とともにアラビア語でしか会話が許されない1週間の合宿に参加する予定です。



イスラム世界がなければ、近代科学の発達はなかった？

文化学部 国際文化学科 山本啓二教授

紀には、その前の古代ギリシアで花開いた科学。これがギリシアの学問は、ローマ帝国が東西に分裂した後の西側ヨーロッパにはほとんど継承されませんでした。それは、8世紀から10世紀にかけて、ギリシア語からアラビア語に翻訳されるという形でイスラム世界に伝わったのです。そして、イスラム世界が今のスペインがあるイベリア半島にまで勢力を拡大した後の12世紀には、ヨーロッパでは自然科学を中心に学問が盛んになり、17世紀の近代科学の誕生につながりました。イスラム世界によって古代



花魁は、江戸時代のファッションリーダー？

文化学部 国際文化学科 4年 川見 妃佳里さん

私が研究しているのは、江戸幕府に公認された一大歓楽街、吉原遊郭について。2年生の授業で京都の島原に行き、遊郭を見たことがきっかけでこのテーマに興味をもちました。京都の街には、学びのテーマが溢れています。吉原遊郭の一流の遊女である花魁(おいらん)は、豪華絢爛な着物に身を包み、徹底的に文化的教養を仕込まれ、今でいうとタレントやモデル。髪型や着物が当時の雑誌で取り上げられ、まさにファッションリーダー的な存在でした。遊女である花魁は日本が誇る文化という見方がある一方、日本の恥という見方もあります。近年、この花魁文化が世界のイベントで取り上げられる際に議論が沸き起こりました。私も卒業論文で両面から探究したいと思っています。



近年、京都市二条城駅周辺で行われた発掘調査で、平安時代前期の右大臣・藤原良相の邸宅跡から、平仮名が書かれた9世紀後半の土器が多数見つかりました。私は、こうした京都の遺跡などから発掘された出土文字資料の解説に携わっていて、良相邸跡の土器の解説作業にも立ち会いました。これまで教科書などで平仮名が確立したとされてきたのは、10世紀頃。紀貫之が編さんした『古今和歌集』が、その先駆けといわれていました。しかし、良相邸跡の発掘で、一定の成熟した仮名文化がそれより以前にもあったことがわかったのです。これはまさに、歴史的発見です。近年、京都では教科書をも塗り替えるような発見が数多くあります。このように、まだまだ新しい発見があり、現場から学ぶ面白さを体感できるのが、京都で日本の文化を学ぶ魅力と言えらるでしょう。

教科書は、もう古いかも？いろいろな歴史に新たな発見。



文化学部 京都文化学科 吉野 秋二 准教授